

ブックトラックの機能，役割，そしてこれから

— キハラの例から —

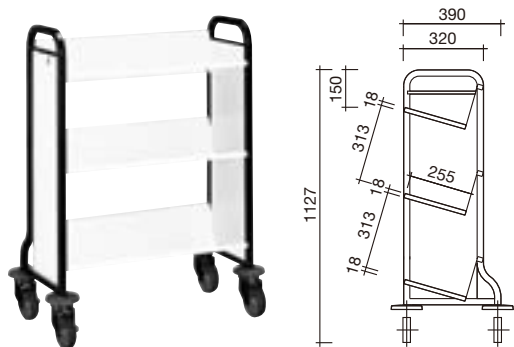
池田 貴儀

はじめに

図書館の中で誰もが一度は目にするブックトラック。資料を運ぶのはもちろんのこと，展示，返本台，カウンター内の作業台など，様々な用途で利用されています。ブックトラックは，昔からありますが見た目は大きく変わってはいません。しかし，必要とされる機能を一つひとつ追及しながら，フレームやキャスター，ネジなど小さな改良が積み重ねられ日々進化を遂げています。本稿では，弊社キハラの事例が中心となりますが，ブックトラックの機能と特徴，活用例などについて紹介していきます。

ブックトラックの特徴

ブックトラックは，資料を置く棚板，棚板を支える両端のフレームと側板，移動するためのキャスターの3つから大きく構成されています。素材もスチールや木製などの種類があり，棚の段数は2段，または3段のものが主流です。また，棚板も水平，片面傾斜，両面傾斜，水平と傾斜，ディ



一般的なブックトラック（片面傾斜3段）

スプレイラック型のように傾きにも種類があり，現場での利用の用途に合わせて選ぶことが可能です。

ブックトラックには様々な機能があります。ここでは，キハラ製のブックトラックを中心にその特徴について，音，手ざわり，安全性の3点から紹介していきます。

(1) 音の対策

スチール製のブックトラックを押して移動すると，どうしてもキャスターの音が大きくなってしまふことがあります。開架エリアでブックトラックの走行音が大きいと，利用者へ不快感を与えてしまう恐れがあるため，その音を最小限にする改善を重ね，現在は二つの機能を持たせています。

一つは静音タイプのキャスターを採用し，走行中でも出る音を減らした点です。実験で従来60dBだった音が，現在は，かすかな声や洋服を着る音といわれる約35dBまで減少しました。

※ホームページにて走行音試験の動画があります。
<http://www.kihara-lib.co.jp/trucksoukou/index.htm>



静音タイプのキャスター



もう一つは，防振ゴムの利用です。静音タイプのキャスターは音の減少に効果はありますが，それだけではまだ不十分な面もあります。そこで，